

# この竹垣(建仁寺垣)について

この竹垣(建仁寺垣)は、東京農業大学 地域環境科学部 造園科学科の学生及び大学院生 有志と 東京農業大学 オープンカレッジに参加された社会人の皆様が、造園科学科百周年記念事業(造園伝統技術の継承と開発のための国際的教育活動)の一環で作りました。東京都昭島市の(株)昭立造園の皆様にご指導を頂き、延べ63名の学生及び大学院生、12名の社会人の皆様が参加しました。

2024年11月に、近くの里山で竹(マダケ)を採取して、竹材に加工しました。2025年3月に、2日かけて、この竹材を用いて建仁寺垣を造りました。

一般に、日本庭園で竹垣(建仁寺垣)は、仕切りや目隠しのために使われます。造園業者の方によると「近年では、竹屋さんから竹材を買うことはあるが、山から切り出すことはない。」とのこと。天然の材料であるマダケは、一本一本微妙に異なり、また、竹の「もと」と「すえ」でも太さが異なります。しかし、工場で生産された工業製品にはない風情があります。そして、10数年の時間が経つと土に還るという優れた素材です。山から切り出したマダケを用いた建仁寺垣の制作を通じて、何百年も前の造園技術者が、伝統的な技術の中でどのように材料の特性を生かしたり、工夫したりしているか、の一端に触れることができました。

さらに、竹林から竹材を採取したり、手入れしたりすることにより、手入れされていなかった「竹やぶ」が、美しい竹林に変わることも学びました。



図 完成記念

【写真編】この竹垣ができるまで(その1) (2024年11月)



図1 作業前の説明



図2 竹林でも注意点を確認



図3 竹を切る



図4 適当な大きさとなるようさらに竹を切る



図5 切った竹を選ぶ



図6 竹を割り、竹材にする



図7 竹材の節を取除く



図8 竹材を束ねる



図9 作業前の竹林  
立ち入れないような竹林



図10 作業後の竹林  
適度に隙間がある、すがすがしい竹林となった



図11 斜面上部の竹垣建設予定地



図12 竹材を降ろす



図13 水平を測る



図14 親柱の穴を掘る



図15 親柱を立てる



図16 胴縁を親柱に取り付ける



図17 水平を確認しつつ胴縁を親柱に  
取り付けていく



たてこ

図18 胴縁に立子を取り付ける



たてこ  
図19 立子をかきつけていく



図20 竹の面ができた



図21 立子を並べた



かさぎ  
図22 天端に笠木を取り付ける



おしぶち  
図23 中部、下部にも押縁を取り付ける



図24 笠木を銅線で結ぶ



図25 笠木を銅線で次々に結んでいく



図26 2日目の講評

【写真編】 この竹垣ができるまで(その4) (2025年3月)



図27 柵と竹材で、いぼ結びを練習する



図28 いぼ結びができるようになった人から  
建仁寺垣の立子を結ぶ



図29 立子には「いぼ結び」



図30 立子をいぼ結びで次々に結ぶ



図31 笠木には「飾り結び」



図32 笠木に飾り結びをつける



図33 完成